

- 自校の課題解決を目指す道徳教育の推進
- (研究実践) 平成3年度研究指定校における実践
- (特別企画) 地域ぐるみの道徳教育紹介

自校の課題解決を目指す道徳教育の推進

一、はじめに

今回の学習指導要領に基づき道徳教育が全面実施されてから三年目をむかえ、各学校においては、自校の道徳教育上の課題解決のために様々な特色ある実践がなされてきている。しかし、一方においては、次のような課題も指摘されている。

- 各学校の独自性のある全体計画が比較的少ない。各種計画の活用が十分でない。
- 道徳の時間の指導が固定化し児童・生徒が生き生きと活動していない。
- 児童・生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る体験活動に対する配慮が十分でない。

各学校においては、このような課題を明確にして、その改善を図っていくことが大切になる。

二、機能する計画

各学校ごとの独自性が明確に出ている計画とは、そこに盛り込まれている事項の具体的中身が各学校で異なるものである。計画を機能させるた

めには、その事項の具体化や改善にかかわる研修体制を確立し、共通理解を図ることが大切になる。学年始学期末、学年末等において、次の観点に対する留意事項と自校の具体的実践事項を明確にして推進することが必要である。

- 豊かな体験学習
- 豊かな体験とは、道徳の目標や内容に示されている精神を内面的に自覚したり、より主体的な行為として表すことのできる体験である。具体的には、現在行われている様々な体験活動を、道徳の内容項目との関連で、どのような側面が培われるのかを見直し、道徳の内容項目全体にわたる道徳性の育成が図られるようにする。

- (2) 各教科・特別活動における道

学級における道徳教育の指導計画（○小学校の例）

学年の指導の重点	項目	具体的な道徳実践の指導の重点	実践と反省		
			1学期	2学期	3学期
○よい習慣を身につけ、気持ちよく生活できる子ども ○身近にいる人に温かい心で接し、親切にする子ども ○生命を大切にすること ○自分の仕事をしっかりと行い、気持ちのよいあいさつができる子ども	1. 各教科における指導	1. 人の話をよく聞き、自分の考えを進んで発表する。 2. 生活科において、自然に親しみ愛護しようとするができる。			
	2. 特別活動における指導	1. 学級の係の仕事をもつてやる事ができる。 2. 話し合い活動を通して、相手の思いや気持ち育てる。			
学級の実態及び道徳性の傾向 ○道徳的心情や判断力は高いが、道徳実践意欲や態度面が不十分である。 ○4つの柱の中で、「他人とのかかわり」と「自然や崇高なものとのかかわり」が他の2つより低くなっている。 ○内容項目では、「感謝」「自然動植物愛護」が高く、「自立・節度」「思慮」が低くなっている。	3. 生徒指導における指導	1. 「杉の子」ノートを活用し、一人一人の児童理解に努める。 2. きまりをよく守り、規則正しい生活をする。			
	4. 学級生活における豊かな体験学習	1. 清掃や奉仕活動を通して、働く喜びを体得させる。 2. 栽培活動を通して、生産する喜びや自然への親しみを深める。			
日常生活における道徳実践の重点事項 ○元気にあいさつをする。 ○人の話をよく聞く ○友だちと仲良くし協力し合う ○生命を大切にすること。	5. 基本的な生活習慣の充実	1. あいさつ運動の推進。 2. 身の回りの整理整頓の習慣化を図る。			
	6. 学級環境の充実	1. あいさつ、言葉づかいなど言語環境を整える。 2. 飼育・栽培活動を活発に行わせる。			
	7. 家庭・地域社会との連携	1. 「杉の子」を通して、学校での生活を家庭に伝える。 2. 道徳の授業参観・杉の子懇談会を通して、家庭と学校の交流を図る。			

○ 道徳性の育成
各教育活動の固有の学習を通して、どのような道徳性が培われるかを把握した上で、それぞれの学習を充実させていくことが大切である。道徳の時間との有機的な関連を図っていくようにする。